

聖地となり、聖地であり続ける甲子園球場について  
松田 光生 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)  
指導教員 菅井 京子

キーワード：甲子園球場，聖地，憲法第9条

## 序論

本研究の目的は、甲子園球場の歴史を調べ、いつどのようにして野球の「聖地」になったのか、また、どのようにして野球の「聖地」であり続けたかを明らかにすることである。用いる資料は、『甲子園球場物語』、『高校野球100年史』、『阪神甲子園球場90年史』などである。

### I. 甲子園球場の歴史

1924年8月1日に、全国中等学校野球大会の開催を目的として甲子園球場が建設された。1924年から1940年までは、甲子園球場も様々な改装をしながら繁栄していった。

しかし、戦争が起こり、1941年から1945年までは戦局が深刻化し、中等学校野球大会が地方大会半ばで断念された。1943年3月18日に戦時行政職権特例が公布され、それに伴い金属回収が行われた。その結果、同年8月19日から甲子園球場の一部の解体が始まり、11月には鉄傘も姿を消した。そして中等野球で活躍した沢村栄治、嶋清一、松井栄造、村松幸雄などの他にもたくさんの選手が戦争の犠牲になり、戦死した。こうして中等野球も第2次世界大戦によって、そのシンボルである鉄傘とともに解体された。1945年に甲子園球場はアメリカ軍に接収された。

### II. 「聖地」としての甲子園球場

政府は1945年8月15日にポツダム宣言を受諾した。戦後の日本は基本的人権の尊重を掲げて各種の憲法上の権利を保障し、戦争の放棄と戦力の不保持という平和主義を定めた。

大会復活の陰には、球場職員の早く本来の甲子園球場の姿に戻したいという思いがあり、藤村嘉夫、大森実、佐伯達夫などたくさんの人の努力により大会の復活が実現した。そして戦争で踏みにじられた人々の想いも蘇り、1945年に甲子園球場は学生たちが何の心配もなく野球に没頭できるようになり聖地となった。

また、甲子園球場が「聖地」であり続けたのは、戦後、日本が憲法第9条により、甲子園球場で野球を守ってきた人々の想いを踏みにじってきた戦争を永久に放棄したからである。そして戦争を2度と起こさないようにすることで、甲子園球場は「聖地」であり続けられたのである。

## 結論

1945年に甲子園球場は学生たちが何の心配もなく野球に没頭できるようになり、甲子園球場は「聖地」となった。また、憲法第9条により、2度と戦争をしないことで甲子園球場は「聖地」であり続けられる。そして、これからも「聖地」として歴史を刻み伝説を作り続けていくことが大切であると考えられる。

## 引用・参考文献

- ・ベースボール・マガジン編 (2014年), 阪神甲子園球場90年史, (株)ベースボール・マガジン社, 9, 45-85頁.
- ・森岡浩 (2015年), 東京堂出版, 高校野球100年史, 104-115頁.
- ・玉置通夫 (2004年), 甲子園球場物語, 文春新書, 13-15, 17, 147頁.